

# 楫取素彦が支援した星野長太郎・新井領一郎兄弟の偉業（上）

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台が群馬に移りました。登場人物の星野長太郎と新井領一郎兄弟は水沼村（現在の黒保根町水沼）出身です。二人について元黒保根村教育委員会教育長川池三男さんの執筆で今号と次号で紹介します。

## はじめに

明治新政府の重要政策に養蚕立国の確立がありました。良質の糸を海外に輸出し、絶対的信用を得て販路を拡大することでした。

その時代、群馬県は養蚕糸産業を軸にした地域でありました。すなわち、国策を推進するために重要な条件を満たしていた県と言えます。

こうした特色を持つ群馬県の県令として赴任した楫取素彦は、県政執行に大きな抱負を持って来県したと思います。

## 製糸に生きた人、星野長太郎



星野長太郎  
(黒保根村誌より)

星野長太郎は、弘化2（1845）年、代々水沼村の名

主をつとめた豪農の家に生まれました。また、幕命を受けて郡中取締役に任じられていて、長太郎も見習い役ながら管内18村を巡察していました。村々いづれの家も養蚕で生計を立て、農閑には座繰製糸を営んでいました。しかし、これでは、商品としての体裁も悪く値段も切られてしまい不利な条件下にありました。長太郎は、この条件を改善し村人の生計を豊かにするために製糸工場を建設することを思い立ったのです。

製糸技術は前橋藩営の大渡製糸所に入所して勉強したのです。妻と女工を連れて研修を積み、そのうえ製糸所の設計施工の指導を受けました。明治6（1873）年、前橋藩士速水堅曹らの指導助言を得て工場の建設に当たりました。また、設計者は富岡製糸所を設計したフランス人ベリユーナでした。

翌年2月、操業開始にこぎ付けたのが民間で最初の洋式器械製糸所でした。それは農民星野長太郎の快挙でした。

## 楫取素彦と、製糸所閉鎖回避

長太郎は、確かな「製糸器械築造費用其見積書」を作成しているながら、自己資金は貧弱でありました。

速水堅曹から10000円、群馬県から30000円借入れで資金繰りをしていたことが記録にあります。

国や郷土の経済に考えが先行し、資金は借入れによって事業を遂行しようとしたことがうかがわれます。

県資金の借用願いは前任県令の河瀬秀治に出しましたが、後任の楫取によって決裁されたことは、速水堅曹の助言と、



水沼製糸所外観（黒保根村誌より）

製糸に生きる長太郎に期待を寄せたゆえであったのです。しかし、経営を好転させるには困難が続きました。

明治9（1876）年は、米國直輸出の年ですが、資金繰りはさらに厳しくなり、9月には群馬県に閉鎖願いを出したのです。群馬県に赴任したばかりの楫取はこれを却下して、指導官吏を派遣して再生を図ったのです。各県派遣の教婦を養成し、国策を背負った直輸出の成功を期待する公共性を有する水沼製糸所を閉じることはできないとして、同年、都合1万5000円を貸与したのです。

県令楫取素彦の星野長太郎に対する信頼度の深さは、計り知れないものがあり、その関係は生糸の直輸出成功へとつながるのでした。

（元黒保根村教育委員会教育長・川池三男）



NHK<総 合>日曜日20:00~  
<BSプレミアム>日曜日18:00~  
再放送<総 合>土曜日13:05~

広告